

みずほマーケット・トピック(2024 年 5 月 10 日)

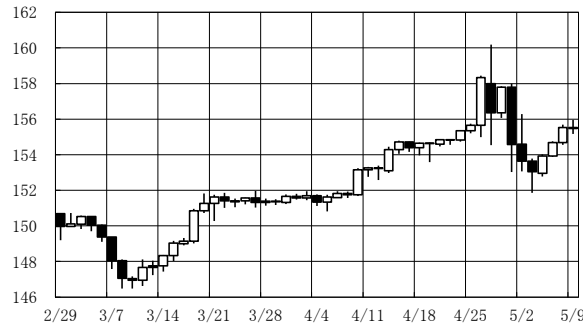
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円は、ドル買い地合いが再開し、155円台を回復した。週初6日、153.63円でオープンしたドル/円は本邦休場で薄商いの中で154円付近まで上値を伸ばした後、米金利低下につれて153円台半ばまで軟化し、終日を通して153円台半ば～後半でもみ合い推移となった。7日、ドル/円はドル買い優勢となり154円台を回復。東京時間夕方に、岸田首相と植田日銀総裁が意見交換との報道に一時値を落とすも、すぐに反発。会談後の植田日銀総裁から円安について踏み込んだ発言がなかったことで円売りが加速した。さらに海外時間では、長期間にわたる政策金利据え置きを示唆したカシュカリ・ミネアポリス連銀総裁の発言を受け米金利が上昇し、ドル/円も154円台後半へ上伸した。8日、ドル/円は米金利上昇に合わせじり高。海外時間は、ドルの買い戻しが優勢となる中で、FRB高官のタカ派的な発言も支援材料となり、155円台後半まで続伸した。9日、ドル/円は日銀金融政策決定会合の主な意見(4月会合分)がタカ派と解釈され一時的に155円台前半へ下押す場面もあったが、その後は米金利上昇を受け155円台後半へじり高。海外時間、一時週高値の155.95円まで続伸後、米新規失業保険申請件数の悪化を受けた米金利低下が重しとなり、155円台半ばに反落した。本日のドル/円は、引き続き155円台半ばで取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは、1.07台で上下しながらも方向感に欠ける値動きとなった。週初6日、1.0758でオープンしたユーロ/ドルは、米金利低下が支援材料となり一時週高値の1.0790まで上昇したが、その後米金利が上昇に転じ、上値追いには至らなかった。7日、ユーロ/ドルは独3月製造業受注の弱い結果が重しとなり1.07台半ばに下落後、米金利の動向に左右されながら1.07台半ばから後半でもみ合い推移となった。8日、ユーロ/ドルは1.07台前半に続落後、独3月鉱工業生産が市場予想を上回ったことを受けた独金利上昇が下支えとなる中、1.07台半ばに値を戻した。9日、ユーロ/ドルは米金利上昇を受け一時週安値となる1.0724に下落したものの、NY時間には米金利が低下に転じ、1.07台後半に反発して引けた。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.07台後半で取引されている。

		前週末	今 週				
		5/3(Fri)	5/6(Mon)	5/7(Tue)	5/8(Wed)	5/9(Thu)	
ドル/円	東京9:00	153.15	153.63	154.25	154.78	155.39	
	High	153.75	154.01	154.74	155.69	155.95	
	Low	151.86	152.75	153.88	154.60	155.16	
	NY 17:00	153.00	153.89	154.69	155.57	155.47	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0727	1.0758	1.0769	1.0748	1.0747	
	High	1.0812	1.0790	1.0787	1.0757	1.0785	
	Low	1.0724	1.0750	1.0748	1.0735	1.0724	
	NY 17:00	1.0764	1.0769	1.0755	1.0749	1.0782	
ユーロ/円	東京9:00	164.22	165.37	166.08	166.45	166.93	
	High	164.76	165.97	166.57	167.32	167.75	
	Low	164.02	164.41	165.67	166.35	166.77	
	NY 17:00	164.61	165.73	166.36	167.22	167.59	
日経平均株価		-	-	38,835.10	38,202.37	38,073.98	
TOPIX		-	-	2,746.22	2,706.43	2,713.46	
NYダウ工業株30種平均		38,675.68	38,852.27	38,884.26	39,056.39	39,387.76	
NASDAQ		16,156.33	16,349.25	16,332.56	16,302.76	16,346.27	
日本10年債		-	-	0.87%	0.87%	0.90%	
米国10年債		4.50%	4.49%	4.46%	4.50%	4.46%	
原油価格(WTI)		78.11	78.48	78.38	78.99	79.26	
金(NY)		2,308.60	2,331.20	2,324.20	2,322.30	2,340.30	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、15日(水)に4月消費者物価指数(CPI)が公表予定となっている。3月は+3.5%(前年比、以下同様)と市場予想の+3.4%および2月の+3.2%を上回った。また、食料品とエネルギー価格を除いたコアベースでは、+3.8%と2月から横ばいとなったが、市場予想の+3.7%を上振れた。非コア項目では、エネルギー価格が+2.1%と13か月ぶりにプラス寄与となった。他方コア項目では、コア財価格が▲0.7%と3か月連続でマイナス寄与となった一方、コアサービス価格は+5.4%と高水準での推移が続いている。中でも、FRBが重視する居住費除くコアサービス価格も、ブルームバーグの試算によれば+4.8%と11か月ぶりの高水準となっており、FRBの早期利下げを支持する結果とは言えない。なお、4月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+3.4%、コアベースで+3.6%と見込んでいる。
- 本邦では、16日(木)に1～3月期GDP(速報)が公表予定。10～12月期の結果は前期比+0.1%、前期比年率+0.4%と、速報時点ではテクニカルリセッションであったが、その後の改定で何とか回避した格好だ。前期比ベースの数字を寄与度で確認すると、在庫投資の減少幅が縮小しており、全体の成長率を大きく押し上げた。注目度の高い民間最終消費の寄与度は、▲0.2%ポイントから▲0.1%ポイントに下落幅を縮小したものの、3四半期連続でのマイナス寄与となっており個人消費は弱い状態が続いている。1～3月期に関しては、一部自動車メーカーの生産停止などを受け設備投資の落ち込みが予想されることなどを受け、2四半期ぶりのマイナス成長を記録する公算が非常に大きい。なお、ブルームバーグの事前予想では、1～3月期の結果に関し前期比で▲0.4%、前期比年率で▲1.4%と見込んでいる。

	本 邦	海 外
5月10日(金)	・3月家計支出 ・3月国際収支 ・4月景気ウォッチャー調査	・米5月ミシガン大学消費者マインド(速報)
13日(月)	—————	・独3月経常収支
14日(火)	・4月国内企業物価指数 ・4月工作機械受注(速報)	・独4月消費者物価指数(確報) ・独5月ZEW景気期待指数 ・米4月NFIB中小企業楽観視数 ・米4月生産者物価指数
15日(水)	—————	・ユーロ圏1～3月期GDP(改定値) ・ユーロ圏3月鉱工業生産 ・米4月消費者物価指数 ・米4月小売売上高 ・米5月NAHB住宅市場指数
16日(木)	・1～3月期GDP(速報) ・3月設備稼働率 ・3月鉱工業生産(確報)	・米4月建設許可/住宅着工件数 ・米4月輸出/輸入物価指数 ・米4月鉱工業生産
17日(金)	—————	・ユーロ圏4月消費者物価指数(確報)

【当面の主要行事日程(2024年6月～)】

ECB政策理事会(6月6日、7月18日、9月12日)

FOMC(6月11～12日、7月30～31日、9月17～18日)

日銀金融政策決定会合(6月13～14日、7月30～31日、9月19～20日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egon.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egon_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年5月9日	遂にインフレ税が始まったのか？～円安と債務～
2024年5月8日	FRBの「次の一手」と円相場の予想バスのについて
2024年5月7日	円安抑止の処方箋～NISA国内投資枠～
2024年5月2日	週末版(レバトリ減税について～「5%の摩擦」に拘るべき～)
2024年4月30日	日銀が回避した為替との戦い、今後のリスク
2024年4月26日	週末版
2024年4月25日	トランプ氏と為替～結局、何も考えていない？～
2024年4月23日	世界経済の下方シフトの背景にあるもの～IMF分析～
2024年4月22日	ドル高是正の国際協調に機は熟せず～G20とドル高～
2024年4月19日	週末版
2024年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～「分断」はテーマに～
2024年4月17日	前途多難な貿易収支～待たれる電源構成の変化～
2024年4月16日	最悪のシナリオは米利上げ再開～中東リスクと円安
2024年4月15日	依然赤字圏のCFベース経常収支～原油価格騰勢の足音～
2024年4月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年3月分) 週末版(ECB政策理事会を受けて～6月利下げはほぼ既定路線へ～)
2024年4月11日	「でこぼこ道」が「再燃の入口」か～米3月CPIを受けて～
2024年4月10日	過去最高ペースだった「家計の円売り」～Q1を終えて～
2024年4月9日	対内直接投資のキーワードは「資本はアジア、業種は金融・保険業」へ
2024年4月8日	独歩安だった円相場～第1四半期振り返り～
2024年4月5日	週末版
2024年4月4日	ECBは6月利下げに向けて第一関門突破
2024年4月3日	外貨準備構成通貨の近況について(2023年12月末時点)
2024年4月2日	デジタル強国アイルランドの存在感をどう考えるか？
2024年4月1日	デジタル赤字は日本だけの問題なのか？
2024年3月29日	週末版
2024年3月27日	円安・円高双方のリスクになる連続利上げ
2024年3月25日	23年末資金循環統計を受けて～株・外貨共に過去最高目前～
2024年3月22日	週末版(FOMCを受けて～少なくなるドル/円相場の「押し目」)
2024年3月21日	「債券市場への優しさ」が助長した円安～日銀決定を受けて～
2024年3月18日	「噂で売って、事実でも売り」になりそうな円相場
2024年3月15日	週末版(「家計の円売り」は3月も続くのか？～試される個人投資家の芯～)
2024年3月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年2月分)
2024年3月13日	春闘と円高リスク～「異例の買上げムード」というリスク～
2024年3月12日	最近の国際収支の状況について～CFでは初月赤字～
2024年3月11日	最大の円高リスクは日銀の連続利上げ
2024年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月まで材料なし～)
2024年3月6日	世界の株価指数から見えるもの～中進国の容疑～
2024年3月5日	ユーロ圏の賃金・物価情勢～妥結賃金は年内4%台か～
2024年3月1日	週末版(マイナス金利解除と円相場の関係性～ドル/円相場、数少ない押し目の考え方～)
2024年2月27日	ユーロ圏の現状と展望～金利と需給から～
2024年2月26日	日経平均株価上昇の理由～インフレの帰結～
2024年2月22日	週末版
2024年2月21日	1月貿易収支を受けて～24年も円売り優勢変わらず～
2024年2月20日	日独GDP逆転の本質～為替要因だから良いのか？～
2024年2月16日	週末版
2024年2月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年1月分) 本邦10～12月期GDPを受けて～総崩れ～
2024年2月14日	「新時代の赤字」と原油と同質性
2024年2月13日	投信経由の対外証券投資～進む資産運用立国の未来～
2024年2月9日	週末版
2024年2月8日	仮面の黒字国～戻らぬ円とデジタル農奴～
2024年2月7日	PPPやREERをどう解釈すべきか～インフレ調整という未来～
2024年2月2日	週末版(ソフトランディングと賃金減速～正当性を帯びる「夏」の重要性～)
2024年2月1日	FOMCを終えて～為替市場が狙う「次の獲物」～
2024年1月29日	日本円の現在地～独歩安で始まった2024年～
2024年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「夏」がキープーズ～)
2024年1月24日	日銀金融政策決定会合～繰り込んで円安の怖さ～
2024年1月23日	ECB政策理事会プレビュー～勝利宣言はまだ～
2024年1月22日	「家計の円売り」と「損保のレバトリ」の違い
2024年1月19日	週末版
2024年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年12月分) 「貯蓄から逃避」で進む円の独歩安～現状整理～
2024年1月17日	「新時代の赤字」の定点観測と今後の需給イメージ
2024年1月16日	マイルド・キャピタルフライト(後編)～需給への評価～
2024年1月15日	マイルド・キャピタルフライト(前編)～家計の円売り～
2024年1月12日	週末版
2024年1月11日	ユーロ圏インフレ率の近況～再浮揚の読み方～
2024年1月10日	震災と旅行収支の関係について～2011年からの教訓～
2024年1月9日	米大統領選挙の考え方～メインシナリオを覆すか～
2024年1月5日	週末版(能登半島地震の影響について～構造変化を経て「普通の通貨」になった円～)
2024年1月4日	24年、持つべきイメージは「長期円安局面の小休止」
2023年12月22日	週末版(本邦の家計金融資産動向について～外貨性資産比率は「根雪」のイメージで～)
2023年12月20日	日銀金融政策決定会合～解除時期と円相場への影響～
2023年12月18日	2024年、円需給の考え方～円転率や貿易収支が課題～
2023年12月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「利上げ→利下げ」の考え方～)
2023年12月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年11月分) FOMCを終えて～突然変わった節目、日銀への影響も～
2023年12月13日	最近の需給環境について～24年も脆弱性は残る～
2023年12月12日	12月日銀会合の行方～政治的観点、2000年との比較～
2023年12月11日	24年ドル/円見通し外観～「主戦場の変化」を確認する年～
2023年12月8日	週末版(円高と植田発言の読み方～チャレンジングの真意～)
2023年12月7日	ECB、シュナーベル発言の読み方～拡大解釈を警戒～
2023年12月6日	対内直接投資の胎動と今後への展望
2023年12月4日	24年、円高シナリオの鮮度～130円割れはあれど～
2023年12月1日	週末版(ユーロ圏11月消費者物価指数の読み方～「最後の砦」となるサービス業～)
2023年11月28日	ユーロ圏経済とECB金融政策の現状と展望
2023年11月24日	週末版(貿易赤字国が迎える米利下げ～通貨高は当たり前ではない～)
2023年11月21日	円高とPPPの考え方～収斂するのか、しないのか～
2023年11月20日	過去最安値に肉薄する円の名目実効相場(NEER)
2023年11月17日	週末版(本邦10月貿易統計を受けて～繰り返される23年と同じ言説～)
2023年11月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分) 1年ぶり2度目のCPIショックをどう評価すべきか